

再びその人らしい生活に

ふれあい ひろば

2017年 夏号 Vol.81

愛仁会リハビリテーション病院

大阪府地域リハビリテーション
地域支援センター

- 住所：高槻市白梅町5番7号
- 電話：072-683-1212
- URL：http://aijinkai.or.jp



- 1面 癒しの庭 一緒に育ててみませんか? ~ヒーリングガーデンを目指して~
- 2面 Rプロジェクト進捗状況 新連載
チーム医療活動のご紹介①
「脊髄損傷回診」
- 3面 地域クリニックとの連携の中で⑩
- 4面 患者さまだより⑩ / 在宅サービスセンターだより

癒

し

の

庭 一緒に育ててみませんか ~ヒーリング・ガーデンを目指して~

愛仁会リハビリテーション病院 地域医療部 ボランティア事務局

平成23年7月、愛仁会リハビリテーション病院は、現在の場所に移転しました。新たな場所に移転以降、4階病棟の庭園におけるガーデニング管理は、院内ボランティア【名称：マザーグース】の方々が担って下さっています。

入院リハビリテーションの一環や、ご家族・ご友人と談笑される際に4F庭園を利用される患者さまも多く、退院時に患者さまより「庭園のお花に癒された。」「花を見て明るい気持ちになれた。」等のお声を頂くこともあります。まさに、マザーグースの活動は、当院にとって大変重要な役割を担って頂いていることとなります。

マザーグースは、高槻病院との協働で昭和62年に設立され、今年30周年を迎えます。『花壇ボランティア』以外にも、ご家族や身寄りのない患者さまの洗濯ボランティアや、本の貸し出しを目的とした

移動図書等で活動して頂いています。少子高齢社会に伴う『ボランティアの減少』・『ボランティアの高齢化問題』は、マザーグースも直面しており、『花壇ボランティア』においても、現在、実質お二人の方が、役割を担って頂いている状況にあります。



現在、ボランティア事務局では、一緒に病院庭園を癒しの庭に育てて下さる方を募集しています。活動は月曜日～金曜日の9時～17時の中で、ご都合がつく時間帯、月に2回程度の活動を目安としております。ご興味をお持ち頂いた方は、是非、一度下記までご連絡下さいますようお願いいたします。

お問合せ先

愛仁会リハビリテーション病院
地域医療部 ボランティア事務局

電話：072-683-1212

E-mail: airihahp@takatsuki-hp.or.jp



チューリップ



ガウラ・ホルティウム・ペンステモン



チューリップ・ユリオプスデージー



ツルニチチソウ・チューリップ

Rプロジェクト

進捗状況

副院長 児島 正裕



現在愛仁会では、複数の大きなプロジェクトを推し進めており、高槻地区の愛仁会各医療施設も、さらに有効な医療サービスを提供できるような、新たな発展段階を迎えます。その最たるものが、高槻病院の改築プロジェクトです。今年の6月には同院の第Ⅱ期工事が完了して、従来愛仁会リハビリテーション病棟の2・3階に同居していた高槻病院の外来部門が、新築なった病棟へ移転いたしました。それに伴って、6年前に愛仁会リハビリテーション病院へ移設されていた血液浄化センターも、高槻病院に再び戻ることになりました。これからは同院の使命でもある急性期診療に特化した透析部門として再編されることとなります。

これら移転によって空いた2・3・8階スペースを改修し、愛仁会リハビリテーション病院がリハビリの専門病院としてさらに

有効な医療サービスを提供していけるよう、現在「Rプロジェクト」が進行しています。

このプロジェクトに沿って、平成30年1月の8階新病棟と2階の新リハビリセンターの開設に向けた改修工事が、6月末から開始されました。回復期病棟の増床や、リハビリの訓練室とともに、リハビリ外来、放射線・生理検査室、義肢装具の採型・調整専用室、さらには薬剤相談室を集約的に統合したりリハビリセンターの設置など、地域の皆さまの御要望にお応えすることができるよう優良な医療環境を整えて参ります。

工事期間中は、患者さまやご家族さま、関係者の方々には御不便をおかけすることになります。今回の「Rプロジェクト」を通じて、さらに皆さまに質の高いリハビリテーション医療を提供できるよう、職員一丸でがんばっております。皆さまのご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

新連載

チーム医療活動のご紹介①

脊髄損傷回診

リハビリテーション科 医長
松岡 美保子

当院は平成23年7月に新病院に移転、障がい者病棟を立ち上げ、以後脊髄損傷（以下、脊損）患者さまが増加しています。最近では常に20人以上の脊損患者さまが入院リハビリを受けておられます。脊損患者さまの抱えている問題は多岐にわたることが多く、患者さまの担当スタッフだけでは問題解決に至りにくいこともあります。

そこで当院ではチーム医療活動のひとつとして「脊髄損傷回診」を実施しています。「脊髄損傷回診」スタッフも交えて話し合うことにより問題解決方法を探ることを目的とし、事前に担当スタッフから報告される現状や課題、特に療養上の諸問題やリハビリテーションの進捗状況、ゴール設定について討論し、その後に患者さまのもとへ訪室し、その場で相談や意見交換を行います。回診時に提案のあった内容や継続



医療法人 正優会

なりきよ医院

診療科目 胃腸内科・外科・肛門外科



成清先生は、2012年1月より田畑クリニックを引き継いで診療され、2013年からは、なりきよ医院として診療を続けておられます。勤務医の頃は消化器外科がご専門で、胃カメラや各種検診も行っており、地域の患者様のがんの早期発見に努めておられます。また、がんに関わらず幅広い疾患に対応されており、通院が難しい患者様には訪問診療を行っておられます。大阪医科大学附属病院循環器科と連携し、毎週金曜日には大学からの派遣で循環器専門医による診察を行っておられます。

Q.当院に対するご要望(連携面)についてお聞かせください。

A 退院後に紹介いただくことがあります。事前にご連絡いただき、訪問診療の場合には、カンファレンス(退院前に初めての患者さまとの顔合わせと情報の共有の機会)を調整していただいています。成人の方であれば、胃瘻や呼吸器などの医療的ケアにも対応しています。新しい医療機器など、薬局や業者によって使い方が少し異なることもありますので、事前に情報を共有して、もう少し統一されるとよりよいと思います。

Q.当院の取り組み(短期入院・ボトックス外来・装具外来・心リハ外来)についてはいかがでしょうか？

A 短期入院では、介護に熱心なご家族も多く患者さまを預けるということを不安に思われる方もおられるので、短期入院の説明をしながら、対象となる方がいればご紹介させていただきます。心臓リハビリテーション外来については、適応が分かりづらい部分があります。とりえず紹介して先生の判断を仰ぐという形から慣れていくということもできますが、具体的にこういう方が対象になるという内容があるとよいです。



医院は駅からも近く、待合室も明るくゆったり過ごせる雰囲気でした。訪問診療のお話の中で、患者さまが長く家で過ごして頂けるように、必要に応じて治療を選択されているお話を伺い、患者さまのより良い生活を考えながら治療に取り組まれているという先生の真剣で温かい思いを感じました。成清先生お忙しい中、ありがとうございました。

(地域医療部)

〒569-0814
高槻市富田町1丁目11-8
TEL.072-696-9221

JR東海道本線(京都線)摂津富田駅
阪急京都線富田駅より徒歩1分
駐車場は無料、3台分のスペースがあります

診療時間	月	火	水	木	金	土
午前 8:30~12:00	○	○	○	—	○	○
往診 14:00~16:00	○	○	○	—	○	○
午後 16:30~19:30	○	○	○	—	○	—

土曜日のみ12時30分まで受付しております
休診日:木曜日・土曜日午後・日曜日



成清道博院長



課題・目標については、患者さまの担当スタッフで情報を共有し実践・解決することと患者さまに還元するよう努めています。

回診は毎週金曜日の13時から14時対象は約4名の脊損患者さま、回診スタッフは医師、看護師、理学療法士、作業療法士、管理栄養士、医療ソーシャルワーカー、臨床心理士、福祉用具業者等です。対象患者さまが多く、前の回診から1ヶ月以上飛んでしまうことが回診スタッフの悩みです。担当スタッフに加えて、様々な職種がチーム一丸となり意見を申し合つことでより患者さまの不安軽減、問題解決、当院の理念である「再びその人らしい生活に」近づけるよう日々奮闘しています。

退院後、 ホノルルマラソンに 挑戦!!

Mさん(60才男性)



今回は、脳出血の後遺症に対するリハビリで
当院に入院され、現在は在宅生活中のMさんのご紹介です。
なんと退院後「ホノルルマラソン」に挑戦されたとの事。
そんなMさんを日々献身的に支える奥様に、
病院側からと在宅サービスセンター側からの双方からお話を伺いました。



INTERVIEW
患者さまだより¹⁵
インタビュー

Q 退院後はどのように過ごされておられますか？海外旅行に行かれたとお聞きましたがその時の話を聞かせてください。

A 退院後すぐは医療処置(気管切開)が必要で、なかなか主人から離れることができませんでしたが、少しずつ主人がデイケアにいる時間を利用して外出するなど自分の時間を確保することができるようになりました。

主人の定年後の夢であったホノルルマラソンに参加させたいと思い、入院中に担当医に相談し在宅生活に慣れてきた頃、海外旅行に行く決心をしました。旅行会社に行き、ユニバーサルツーリズムという高齢や障がいの有無に関わらず、訪問看護師に相談しながら進めていきました。レスパイト中には離床時間の延長など、いつも以上に本人も頑張っていました。現地でのトラブルは一切なく、10キロウォークを見事完歩。

今回のホノルルマラソンを通して、主人の夢を叶えるために家族が一つになることができました。目標があったからここまで頑張ることができたと思います。

旅行に行くという目標により、介護だけの単調な毎日がハリのある日々に変化されたようです。ご本人のみならず、奥様・息子様も走るのがお好きと伺っており、次回は那覇マラソンの応援に行く企画が出ているようです。また、旅行のお話を聞かせていただきければと思います。本日はありがとうございました。

(地域医療部 医療福祉相談科 水本裕美子)

愛仁会高槻 在宅サービスセンターだより

高槻在宅サービスセンター
訪問看護ステーション愛仁会高槻 矢田 由美

他の病院からリハビリ目的で愛仁会リハビリテーション病院に転院して来られた際、奥様は当在宅サービスセンターのヘルパーステーション愛仁会高槻で登録ヘルパーとして勤務されていました。在宅療養に向けての医療的ケアや、介護指導を熱心に受けられ、最終的にはMさんの介護に専念されました。吸引、胃瘻注入等の手技習得もスムーズで、ヘルパーとしての経験が大いに生かされていると思います。

奥様、息子さんはスポーツが得意で、家族でホノルルマラソンに参加しようと計画していた時のMさんの病気発症であり、『退院したらホノルルマラソンを走る』を家族の目標にされました。入院中から資料を集め、障がい者のツアーに参加申し込みをしてからの退院となりました。退院後、気管カニューレもはずれ、移動手段、移動中やホテル滞在中のケア方法など、細かなことをいろいろと想定しながら奥様と一緒に考え計画実行できました。娘さんとお嫁さんがMさんの車椅子を押してMさんも10km完走、奥様と息子さんはフルマラソン完走されました。Mさん家族の絆を感じます。

また、購入された介護車両で、Mさんの好きな電気屋さんに行ったり、息子さんの結婚式では父親の役割を果たされる等、活動的な日々を過ごされています。

定期的なレスパイト入院の利用で、奥様は友達との旅行等自分の生活も楽しみながら介護を頑張っておられます。

退院して1年、パワフルな奥様と共に次の目標が達成できるように、関わっていきたいと思います。